

令和7年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」 作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 未来の自分のために 」

愛知県 岡崎市立額田中学校 3年 長坂 芽依

泥にまみれた食器、倒れた冷蔵庫、砂と泥だらけの床。一体何が起きたのか。

この光景は、浸水した親戚のおばさんの家の復旧作業を手伝いに行ったときに、目の当たりにした光景です。

2023年6月2日。私の住んでいる岡崎市で、大雨により浸水や土砂崩れなどの被害が出ました。そこで私の親戚のおばさんの家が浸水の被害にあい、復旧作業を家族で手伝いに行きました。そして、この光景を目にしたとき、私は何をしたらよいのか分からず母と同じ手伝いをすることしかできませんでした。泥々のお皿を洗ったり、ふいてもふいても砂が出てくる床をふきながら、災害の復旧の大変さを感じました。

「今日は来てくれてありがとうございます。ここも、お願ひしていいですか。」

お願ひされ近所の人や消防団の人などたくさん的人が手伝っていたことに気づき、もっとがんばろうと思えました。

この経験から、災害が起きたときのために大切な3つのことに気付きました。それは、知識をつけること、地域と協力すること、対策をすることです。

まず、知識をつけるためには、一人一人が災害に対する関心を持つことが大切だと思います。しかし、災害に関心を持つ機会が少ないというのが現状です。なぜ災害に関心が持てないのか。私はその理由に、災害がおこった時の被害しかニュースで放送されないからだと考えます。例えば、地震によってたくさんの建物が倒壊したなどの被害がニュースなどで放送されます。それを見て、大変だと思う人が多いと思いますが、どこか現実味がなく自分とは遠いものであると考える人も多いと思います。それは、自分のまわりで同じことがおこるかもしれないということをイメージできていないことが原因だと考えます。そこで、おこった被害の復旧の様子や困っている人々の声をニュースなどで届け、災害が自分と遠いものではないと思ってもらうことが重要だと考えます。

次に、地域と協力することです。今回の経験で、災害がおこったときには地域との協力が必要不可欠だと感じました。そこで、災害がおこったときの避難場所を地域全体で確認したり、各町で防災訓練を実施したりするとよいと考えます。内閣府が発表している防災に関するアンケートでは、防災訓練に参加したことがあるかという質問に対し、4割が存在を知らなかつたと答え、知っていたが参加したことがない人を合わせるとおよそ7割でした。実際に私も存在を知らず、参加したこと�이ありませんでした。そこで参加するハードルを少しでも下げるために各町で開催したり、チラシで呼びかけたりするとよいと考えました。

最後は、対策することです。今私がやろうとしていることは、家族や学級で災害に対する対応や準備について話し合う場をつくることです。現在、家族で安否確認方法などについて決めている人はおよそ3割ととても少ないです。特に若い世代の方方が関心を持っていない傾向があるというデータもあります。そこで、家族で防災グッズを作つてみたり、学級で災害別の対応について話し合い、確認しておくことはとても重要だと考えます。

知識をつけて地域と協力して対策する。今回の災害から学んだことを忘れず、自分でもっと調べながら家族や友達にも呼びかけていきたいと思いました。

今の日本では、南海トラフ巨大地震をはじめ、いつ大きな災害があるかわかりません。「未来の自分のために、今の自分ができることはなにか。」このことを常に頭において、日々のニュースで放送されている災害を決して他人事のように流さず、自分がその立場だったらどうするかを考え、対策することが大切だと思います。